

# 週刊新潮

6月30日号  
400円



25



# 医学の勝利が 国家を亡ぼす

最終回



## 「年寄りが先に逝く」 という常識を復権せよ

次世代のために(小樽で講演する麻生氏)

「90歳になって老後が心配とか、わけのわからないことを言っている人がこないだテレビに出てた。『おい、いつまで生きているつもりだよ』と思いがら見てました」

6月17日、北海道小樽市の自民党支部大会でこう語ったのは、麻生太郎副総理兼財務相。参院選前という折から、失言を十八番とする政府重鎮が蒔いた新たなタネに、野党の党首は「高齢者に失礼」(民進党の岡田代表)、「人間の尊厳を否定する」(共産党の志位委員長)などと、こぞつて噛みついたが、はたして、これは失言といえるのか。

「90歳のお年寄りが老後を心配していたら、普通は笑ってしまおうでしょう。表面的な『舌禍』の話にしてしまっても、無意味です」

臨床医の里見清一氏はそう指摘する。漢字が読めず、不用意な言葉が多い麻生氏だが、この発言は、人間は死すべきものだという動かし難い真理を伝えている。そこ

から目を遠ざけたら、より良く生きること、より良い社会を築くことも、できないのではあるまいか。

誤解がないように断っておくが、90歳の高齢者はすぐに死ぬべきだ、とはだれも言っていない。避けられない死をいたずらに忌避しても、むしろ人間の尊厳が損なわれかねず、そのうえ次世代にツケを回すだけだと指摘しているのである。

麻生氏が狙上に乗せた90歳の老人は、自らの生への執着を語ったのだと思われるが、解剖学者で東京大学名誉教授の養老孟司氏は、「僕は、死とは社会的関係だけだ、と考えたほうがいいと思うんです」

と云って、こう続ける。「一人称の死、つまり自分

いづれ団塊の世代が後期高齢者になれば、医療費の膨張は今の比ではなくなる。それでも高齢者に延命治療を際限なく施せば、国家が亡びてしまう。この国を次世代に継承するために問われているのは、われわれの死生観である。すなわち、年寄りが先に逝く――。

兆円と、今より25兆円も増えそうだという。放っておけば、再三述べてきたように国家が亡ぶ。高齢者が生物としての「寿命」に逆らってまで高額な医療費を使いつづけ、その末に破綻が訪れば、われわれの子や孫たちには、老後を心配する余裕すらなくなってしまう。その意味で死は「社会問題」なのである。

では、死を遠ざけることによつて、死とはよくわからない、恐るべきものだ、という意識が非常に強くなつたと感じます。その結果、医療の現場でなにか起きているか。厚労省出身の外科専門医で、日本医療政策機構エグゼクティブディレクターの宮田俊男氏が、その一例を語る。「大学では、かなり高齢のがん患者でも亡くなる間際まで、抗がん剤を投与されている例があります。あるいは超高齢で肝硬変で亡くなるリスクが低い人に、肝炎ウイルスを消失させる超高額な薬を投じたり、近い将来には高齢の患者に人工

心臓を装着し、重度の認知症があつてもなかなか死ねないようになる。それで人間は幸せなのでしょうか」しかし、それは必ずしも患者自身が望んでいることではないというのだ。「いろんな患者さんを見てきて、明治、大正、昭和一桁までの方は、戦争で亡くなった知人のためにも生きる義務がある、とおっしゃいます。一方、それ以後に生まれた方は、オムツや食事の介助が必要になつたらどうしますか」と聞くと、10人中9人が「まっぴらごめん」と答えます(国際医療福祉大学大学院の高橋泰教授)

ですが、あなたは どう思いますか」と聞くと、顔をしかめて「嫌です!」と言つたんです。ほかの認知症高齢者も、同じ状況では同じ反応を示した。結局、患者が胃瘻について「嫌だ」と言う割合は、認知症の方も非認知症の方も8割で、数字がピタッと合いました。大井氏は、認知症の人にも備わる判断能力を、「おそらく、われわれが40億年かけて進化する過程で育った能力で、『理性』と言つてもよいもの」と推測するが、死と向き合わないこの社会においても、実のところ、いたずらな延命を望む人は、決して多くないようなのだ。

「おそろく、われわれが40億年かけて進化する過程で育った能力で、『理性』と言つてもよいもの」と推測するが、死と向き合わないこの社会においても、実のところ、いたずらな延命を望む人は、決して多くないようなのだ。それについては、日本医師会も承知しており、横倉義武会長が言う。「終末期の医療のあり方については、自分の意思をしっかり表示していただきたいと思います。最近では、入院時などにリビングウィルを示される高齢の方が増えてきました。今後は人間

### 尊厳ある死は低コスト

先の大井氏も言う。「私が看取り医として直接対応するのが、胃瘻の問題ですが、実は、人間は認知能力が相当低下していても、自分の身に関して環境から与えられる情報は、理解できるものなんです。たとえ

ば、90歳近い認知症の女性が誤嚥作用を起こして入院され、担当の医師が、胃瘻をつけたほうがいい」と勧めた。ところが、私が患者さん自身に「お腹に小さな穴を開け、管から栄養を入れるのがいい」と言う人もい

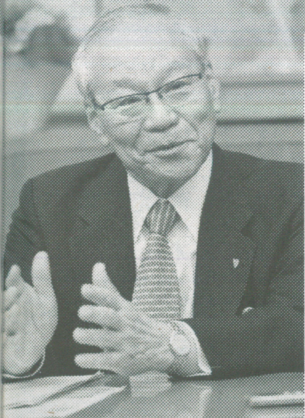
ます。誤解してはいけません。経済的理由で延命治療を控えるとか、在宅で看取れという話ではないという事です。尊厳ある最期を求めていくと、自ずとコストがかかりにくいはずで

「今の日本は延命治療にお金をかけた結果、皮肉にも患者の尊厳を損ねている場合が多い。厚労省の調査によると、国民の7割が、終末期をすごしたい場所として、『自宅』を希望しています。誤解してはいけません。経済的理由で延命治療を控えるとか、在宅で看取れという話ではないという事です。尊厳ある最期を求めていくと、自ずとコストがかかりにくいはずで



養老孟司氏





ト増加と、患者の求めてい... 人生の最終章の医療との... 間に乖離が起きていること... こそ、一番の問題です。望... んでもない過剰な延命治... 療が続き、それが社会の負... 担になっていく現実を、直... 視する時期にきています」

ろ言いますが、あなたの年... 齢では当たり前のこと。気... にしないで普通に暮らして... いればいい」と言われまし... た。先生に、車だつて乗る... うちに油が漏れたりするで... しょ」と言われて納得しま... した。長く使った車は性能... は新車に劣っても、たくさ... んの思い出がある。老いて... いく自分もそういうものだ... と思います。今生きている... 自分をどう認めていくか。

「若い人のように働けな... い高齢者の割合が増え、医... 療が高度化してコストが増... せば、今のままの医療を続... けるのは原理的に無理。ほ... かに公平で、科学的で、倫... 理的にも正しい方法があれ... ば、そちらがいいのですが、... 私は寡聞にしてほかの方法... を耳にしたことがない。元... 厚労副大臣の鴨下一郎代議... 士は、余裕がある老人の負... 担を増やせとおっしゃって... いましたが、それで足りる... はずはない。また、余計に... 支払った分が自分の子や孫... のためでなく、赤の他人の... 老人を養うために使われる... として、余裕のある老人は... 納得するのでしょうか」

「私は今年80歳で、生物... 学的にあと何十年も生きら... れると思つていません。そん... な中、今年5月に健診を受... け、その結果をかりつけ... 医に見せました。先生は... 『あなたが50代ならいろい... 』

「平均寿命のほうがいいの... ではないか、という方もい... ますが、最初は85歳で線を... 引き、消費税のように少し... ずつ下げていく、というほ... うが嫌でしょう。ペンシル... ベニア大学副学長のエゼキ... ー



里見清一氏

次世代を考えるのが生き物

「当たり前ですが、死に方... を考えるときには、生き方... を考えないといけない」... と説き、こう続ける。

「30代でこの病気はまずい... から治療しようとか、40代... で糖尿の気があるから運動... しようとか、80代なのだけ... ら無理して治療はしないと... か、人の一生の中でその都... 度判断することです。そし... て、今は超高齢化への対処... に追われていますが、本来... は、今の30代が10年後にど... うなるか、50代がどうなる... か、それを予測して社会を... 構築していくべきだと思っ... ます。今は周りのことより... 自分のこと、という社会に... なってしまいました。今、... われわれが考えなければな... らないのは、自分の世代で... まで私立病院に通っていた... 層が国公立病院に流れたせ... いで、診療や手術がいつま... でも行われず、処方箋をも... らうのに何日もかかるのが... 常態化しました。治療に必... 要な薬もなく、医師や看護... 師の給与が十分に支払われ... ず、人材が国外に流出する... ようになりました」